

薬の伝言板



～抗菌薬・抗生物質について知っておいてほしいこと～

No.304 2023年3月
丸子中央病院 薬局

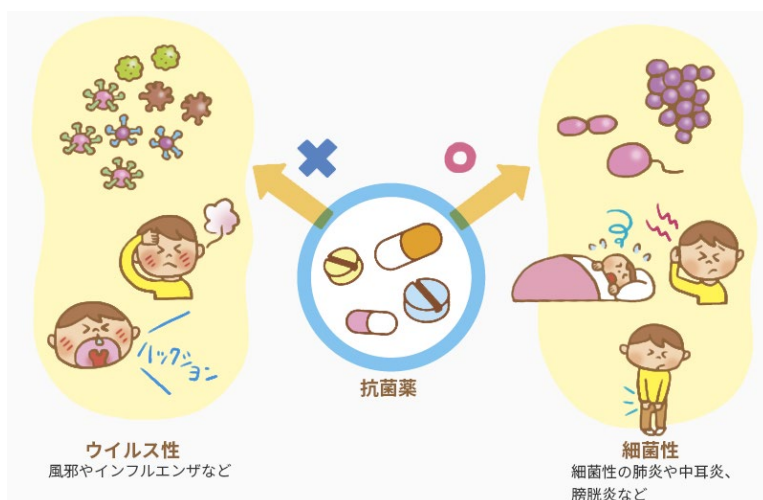
抗菌薬という言葉、どこかで聞いたことがありますか？抗菌薬の中でも微生物が作ったものを抗生物質、抗生剤と呼ぶこともあります。抗菌薬とは、コロナウイルスのような「ウイルス」に対して効果があるのではなく、「細菌」を壊したり、増えることを抑えたりする薬のことを指します。

この抗菌薬・抗生物質について、みなさんに知っておいてほしいことがあります。

感染症治療の切り札といわれる抗菌薬が効かない薬剤耐性の問題が世界中で深刻化しています。日本でも 2種類の「薬剤耐性菌」によって2017年に国内で8000人以上が死亡したとの推計が出ており、深刻な影響が懸念されています。薬剤耐性の問題は、抗菌薬・抗生物質の不適切な使用が一因とされており、その対策として私たちにできることは、抗菌薬・抗生物質の知識や理解を深めて正しく使うことです。

1. 『風邪』に抗菌薬は効きません。抗菌薬は「ウイルス」を退治できません。

一般的に、『風邪』とは「ウイルス」が原因でいろいろな症状を起こします。この風邪の原因が「ウイルス」、というのが大切なポイントです。抗菌薬は「細菌」と戦う薬。「細菌」と「ウイルス」は全く別の病原体なので、抗菌薬は「ウイルス」には効きません。風邪を治すのはあなた自身の免疫力であり、お薬ではありません。



薬局やドラッグストアで売られている風邪薬は、風邪のつらい症状を和らげるためのものです。原因のウイルスをやっつける薬ではないのです。



2. 処方された抗菌薬は医師の指示通り服用しましょう

これまで抗菌薬をもらった時、指示された通りに最後まで飲みましたか？実はこれはとても大切なことです。症状がある時にだけ飲んだり、早く止めたりするのではなく、しっかり飲み切ることが重要です。またそれぞれの抗菌薬にも特徴があり、1日に1回飲む抗菌薬もあれば、1日に4回飲まないといけない抗菌薬もあります。1日に4回飲む薬を1回だけ飲んで効果は出ないのです。

途中で止めてしまったり、回数を減らして飲んだりするような中途半端な飲み方は、抗菌薬の効果が十分出せずに、治療の失敗へと繋がります。また細菌を抗菌薬の効きにくい形へ変化（耐性化）させてしまうことにもなるため、今後の治療においてもメリットとなることはないのです。

3. もし、副作用が出たら…？

もちろん、抗菌薬は他の薬と同様に副作用が出る場合があります。特に多いのは下痢です。これは病原体だけでなく、腸内の環境を保っている細菌も抗菌薬が攻撃してしまうためです。

抗菌薬を飲み切りたくても、副作用で飲み続けることをためらうことがあれば、無理せず医師や薬剤師に相談することをお勧めします。



抗菌薬は、風邪には効きません。コロナウイルスなどのウイルスをやっつけることもできません。どこに起きた感染症で、どの細菌によるものか、など様々なことを考慮して最適な抗菌薬が処方されます。それぞれ薬によって服用方法が異なりますので、医師や薬剤師の説明をきちんと聞き、正しく服用しましょう。

処方された飲み方を守ることは、あなたの病気を確実に治すため、抗菌薬による副作用を減らすため、とても重要なのです。